



大阪公立大学の研究者の世界

第7回

ACADEMIC CAFE

2022 7.15 Fri

Zoom開催

13:00~15:00

参加方法: Zoomウェビナーにて開催(URLより参加)

※URL・パスコードはポータルサイトに掲載します。

テーマ: 火に関わる自然環境と人の暮らし
—地質時代と現在

Episode1. 氷期・間氷期の気候変動と 15万年間の山火事の歴史



井上 淳
理学研究科 准教授

地球温暖化が叫ばれて久しい昨今ですが、そもそも地球の気候は長期的にはどのように変化してきたのでしょうか。また、気候温暖化に伴って世界的に大規模な山火事が起きていますが、日本でもこうした山火事は起こるのでしょうか。これらについて、日射量変動による長期的な気候変動を踏まえて、琵琶湖の堆積物に含まれる小さな炭の研究から明らかとなった過去15万年間の山火事の研究例とともに考えてみます。

Episode2. ボルネオにおける環境改変と 人—自然関係



祖田 亮次
文学研究科 教授

ボルネオは東南アジア島嶼部の中央に位置し、世界一の生物多様性を誇る熱帯雨林を擁しています。そこに暮らす先住民は移動を繰り返しながら、焼畑や狩猟・採集、漁撈などに従事してきました。しかし、20世紀後半以降、大規模な商業的木材伐採やプランテーション開発の波にさらされ、その生活・生業は大きく変化しています。ボルネオはいわゆる人新世時代の環境破壊を象徴する場所となりましたが、そうした開発の進展の中で人々の生活の何が変わったのか、変わらないのか、あるいは今後の展開はどう予想されるのか、考えてみましょう。



ファシリテーター
益田 晴恵
特任教授(学術URA)

地球温暖化が顕著になりつつある現代において、気候変動は人類や生物全体にとって生存に関わる重要な問題ではありますが、その影響の範囲は多様です。野焼き・山火事などの人類の歴史と共にあった社会活動は、化石燃料の大量消費へとつながり、自然環境を改変してきました。気候変動と人の営みとの関係を地質学と地理学の視点から考察します。人新世における自然環境と人間の相互作用について、一緒に考えましょう。

■プログラム

- 13:00~ 開会の挨拶
櫻木 弘之 副学長
- 13:05~ イントロダクション
益田晴恵 特任教授
- 13:10~ 講演
井上 淳 准教授
- 13:50~ 講演
祖田 亮次 教授
- 14:35~ 座談会
益田 晴恵 特任教授
井上 淳 准教授
祖田 亮次 教授

All religions, arts and sciences are branches of the same tree. Albert Einstein

われわれは、すべてのものを包括する統一
的な知識を求めようとする熱望を、先祖代々
承継してきました。学問の最高の殿堂に
与えられた総合大学 (university) の名
は、古代から幾世紀もの時代を通じて、総
合的な姿こそ、十全の信頼を与えられるべき
唯一のものであったことを、われわれの心
に銘記させます。しかし、過ぎる100余年の
間に、学問の多種多様の分枝は、その広さ
においても、またその深さにおいてもますます
拡がり、われわれは奇妙な矛盾に直面す
るに至りました。われわれは、今までに知ら
れてきたことの総和を結び合わせて一つの
全一的なものにするに足りる信頼できる素材
が、今ようやく獲得されはじめたばかりで
あることを、はっきりと感じます。ところが一
方では、ただ一人の人間の頭脳が、学問全
体の中の一つの小さな専門領域以上のもの
を十分に支配することは、ほとんど不可能
に近くなってしまったのです。

この矛盾を切り抜けるには (われわれの真
の目的が永久に失われてしまわないように
するためには)、われわれの中の誰かが、
諸々の事実や理論を総合する事に思い
きって手を着けるより他には道がないと思
います。

シュレーディンガー：岡小天；鎮目恭夫 訳。
「生命とは何か—物理的にみた生細胞」
まえがきより抜粋

知's
SEEDS
大阪公立大学